

を語る 1

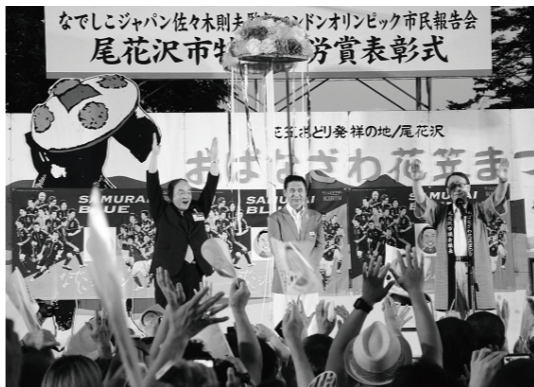
おばなざわ 尾花沢市(山形県)

尾花沢市長
加藤國洋 かとうくにひろ

雪とスイカと花笠のまち 尾花沢

はじめに

尾花沢市は、山形県の北東部に位置し、東部には奥羽山脈、南部には柴倉山と甌岳を結ぶ山岳地帯、北西部には出羽丘陵の山並みが連なり、市の西部には、日本三大急流に数えられる最上川が蛇行して流れています。



佐々木則夫監督ロンドンオリンピック市民報告会

気候は、年間の寒暖の差が大きく、四季の移り変わりが明瞭で、飛騨の高山、越後の高田と並ぶ「日本三雪の地」に数えられる豪雪地帯です。

市の西部を国道13号が南北に縦断しており、国道347号が市の中心部を東西に横断し、山形県と宮城県を結んでいます。国道347号については、冬期間一部閉鎖となっており、東日本大震災の教訓から横軸の重要性が認識され、宮城県復興計画に位置付けられるなど、5年後の通常通行を目指す、事業が進められています。

大正から昭和初期に建築された木造三層四層の旅館が軒を並べる銀山温泉は、山形を代表する名湯として知られています。温泉街のロケーションもまた格別で、ガス灯がともる夕暮れ時の風景は見る

者を魅了します。情緒豊かな風景を後世に伝えるため、「銀山温泉家並保存条例」を制定し、景観の保存に努めています。

また、本年8月には、本市出身の佐々木則夫監督率いるなでしこジャパンが、ロンドンオリンピック女子サッカーにおいて史上初の銀メダルを獲得するという大変喜ばしいニュースがありました。8月27日にロンドンオリンピック市民報告会を開催し、佐々木監督に「尾花沢市特別功労賞」を授与するとともに、市内外の多くの方々とお祝いしました。

花笠踊り発祥の地 尾花沢

現在、市民憩いの場となっている徳良湖は、花笠踊り発祥の地です。大正8年から始まった徳良湖築堤工事の際に唄われていた土

き唄が「花笠音頭」の発祥とされています。また、土搗き唄に合わせて笠を廻して即興で踊ったものが「花笠おどり」の原型とされています。現在、市内には寺内、安久戸、原田、名木沢、上町の5流派が存在しています。

毎年8月27、28日に行われる「おばなざわ花笠まつり」は本市の一大イベントで、この祭りのフィナーレを飾る花笠踊り大パレードでは、3000名の踊り手による勇壮華麗な「笠廻し踊り」が披露されます。

元気おばなざわ創造プラン

本市では、平成23年3月に平成32年度を目標年次とする新しいまちづくりの指針「元気おばなざわ創造プラン」(第6次尾花沢市総合振興計画)を策定いたしました。「夢がやき 絆でむすぶ 元気創造のまち 尾花沢」を市の将来像として掲げ、将来像の実現のために「農・商・工・観の連携による活力ある産業づくり」にぎわいとやすらぎ

のある定住のまちづくり」など7つの基本目標を定め、各種施策を展開しております。

6次産業化の推進

本市の基幹産業は、農業ですが、就農者の高齢化や新規就農者の減少など農業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。しかし、本市には、夏の生産量日本一の尾花沢スイカや東北有数の飼育頭数を誇る尾花沢牛など全国に誇れる農畜産物が多数あり、生産だけでなく、6次産業化を推進することで足腰の強い農業を目指しています。

平成23年9月には、地域づくりに積極的に取り組む地区のお母さんたちが、農林産物加工場を開設し、地元の食材を活用した加工品の製造販売に取り組んでいます。また、本年7月には、市・地元農協・民間企業の共同開発により、「尾花沢スイカ」を活用した高果汁飲料「尾花沢スイカサイダー」と「尾花沢スイカゼリー」が発売され、8月には日本橋三越本店にて商品を取り扱っていただくなど販路も順調に増えつつあります。

今後も6次産業化を1つの手段として農業振興や地元雇用への活



高果汁スイカ飲料「スイカサイダー」と「スイカゼリー」

路を見出し、地域活性化につなげていきたいと考えています。

ふるさと暮らしを応援

本市では、「尾花沢市ふるさと暮らし応援条例」を制定し、市内に宅地を購入し、住宅を取得した際に最大200万円を助成する「宅地取得等助成事業」や、若い世帯の方が市内の賃貸住宅に入居した場合に家賃の一部を助成する「若者民間賃貸住宅等家賃助成事業」などの定住対策を図っています。

子育て環境についても、平成23年度から医療費の無料化を中学3年生までに拡大したほか、お子さんの健全な育成の場と市民の交流の場を確保するため「地域子育て等拠点施設」(子育て支援センター)、

子ども広場等)を整備しました。また、本年度から市内の中学生以下のお子さんが市の施設を利用する場合、使用料を無料化するなどの充実を図りました。

むすびに

私は、何事成すにも明確な確固たる信念に基づいて物事に当たらなければならぬと考えております。戦後、急激な経済成長が続き、豊かな生活を手に入れた反面、それまで築かれてきた日本人本来

の精神性や倫理観など多くのものを失ったように感じます。

今、改めてかつての精神性や本来の心を見つめ直す時代に入ったのではないかと感じています。先人の築いてきた足跡を「記憶」とし、これから先の時代を「眼差し」ととらえながら今を築かなければなりません。今何を成すべきかを熟慮し、過去から未来へとつなぐ責任ある立場にあることを自覚しながら市民とともに本市発展のために邁進してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 372.32km²
- ◆ 人口 1万8734人
- ◆ 世帯数 5729世帯

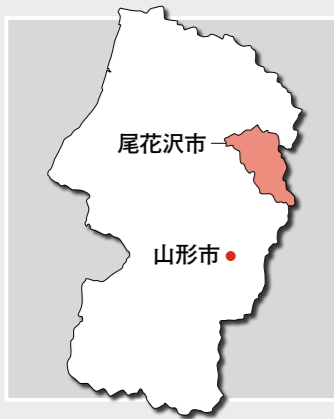
〔将来都市像〕夢かがやき 絆でむすぶ 元気創造のまち 尾花沢

〔まちの特徴〕雪とスイカと花笠のまち、芭蕉十泊のまち

〔特産品〕尾花沢スイカ、雪降りり



尾花沢市長
加藤國洋



牛(尾花沢牛)、米、そば、上の畑焼、ガラス工芸、銀山こけし

〔観光〕銀山温泉、徳良湖、花笠高原、芭蕉・清風歴史資料館、養泉寺、山刀伐峠、延沢銀山遺跡

〔イベント〕徳良湖まつり、おばなざわ花笠まつり、まるだし尾花沢ふれあいまつり、尾花沢雪まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

地域資源を活用した交流型のまちづくりを目指して

はじめに

平成17年11月1日に塩山市と勝沼町、大和村が合併して誕生した甲州市は、甲府盆地の東部に位置し、北東側には大菩薩連嶺をはじめとする秩父山系の山並みが連なり、南西側には盆地に向かって形成された複合扇状地が広がる自然豊かな市です。

市内では、盆地特有の内陸性気候を利用したブドウやモモなどの果樹栽培が基幹産業となっており、地域内で生産された果樹を活用したワイン醸造や観光果樹園などの2次産業、3次産業も盛んに行われています。

また、武田信玄の菩提寺である恵林寺、ブドウ発祥伝説のある国宝大善寺などの神社仏閣をはじめ、重要文化財に指定された史跡も数

多く存在しているほか、日本のワイン醸造発祥にまつわる近代化産業遺産群などもあり、歴史に彩られた文化資産が数多く存在しています。

地理的にも東京から100km圏内に位置し、中央自動車道をはじめ国道20号や411号、140号、JR中央本線などにより、首都圏をはじめ多くの地域との交流、連携が期待できる立地条件にあります。

「交流」によるまちづくり

「豊かな自然 歴史と文化に彩られた 果樹園交流のまち 甲州市」。これは、第1次甲州市総合計画に掲げた本市の将来像です。

市では、目指すべき将来像に向け、地域が持つさまざまな資源や特性、地理的条件などを最大限に生かし、これからのまちづくりを

効果的に進めていくため、「交流」をキーワードに、本市の魅力が輝き、多くの人が訪れ、住んでみたくなる、またすべての市民がずっと住み続けたいとなるまちの実現に向け、取り組みを進めています。

「交流」によるまちづくりを实りあるものとするためには、市内を訪れる方をお迎えするための環境整備が大事であると同時に、お迎えする市民一人一人が地域のことを学び、誇りと愛着を持つことが何よりも大切であると考えています。

「まちづくりは人づくり」とも言われるように、多くの市民が自分の暮らす地域に誇りと愛着を持つことで、さらに地域を良くしていくという思いがはぐくまれます。

市を訪れた方々に対しても、地域の素晴らしさを伝えることで、そこから多くの甲州市ファンが生ま



国内外で高い評価を受ける甲州種ワイン

ウォーキングで交流

「交流」のための施策の一例を紹介しますと、「歩く(ウォーキング)」によるまちづくり事業があります。

近年、中高年層を中心に健康を意識した「ウォーキング」が注目を集めています。市内でも市民が歩いている姿をよく見かけます。また、本市を訪れた観光客の方々が市内の名所旧跡、ワイナリーなどを歩いて回る姿も見受けられます。

観光客などに市内を「歩いてもらう」ことで、より深く地域を知ってもらい、市民との交流が生まれ、そこから地域が活性化していきます。また、市民が市内を「歩く」ことにより、健康増進が図られ、地域を知る学習機会にもなります。このように市内を「歩く」方々のために、武田信玄の菩提地でもある恵林寺やコロガキの里を歩く「信玄の里コース」、日本初の女流職業作家の樋口一葉の両親のふるさとを歩く「一葉の里コース」、日本のブドウとワインの発祥の地を歩く「勝沼フットパスコース」など、地域の特徴を生かしたウォーキングルートの整備やルート上の見どころなどを記したガ

イドマップの作成、ウォーキングイベントの開催などを行っています。

また、県内の若者が企画する市内の30社以上のワイナリーを巡る「ワイナリーリズム」事業は今年で4回目を迎えますが、年々参加者も増え、好評を得ています。

自然景観や歴史文化に親しみながら歩く散策道「フットパス」を活用したまちづくりを進めるため、「日本フットパス協会」にも参画しており、全国に向けた情報発信を強化しています。

市民との協働に向け「市民の視点」を大切に

地域主権改革の進展や昨今の社会経済情勢の不安などにより、自治体を取り巻く環境も大きく変化しており、非常に厳しい時代であるといわれています。こうした中、本市もほかの多くの自治体と同様に効率的、効果的な行政運営に向けた行政改革に取り組んでいます。

平成23年度から平成26年度までの4カ年を計画期間とした第2次行政改革大綱では、基本理念を「協働・成果・効率・安心を重視した市民の視点による、夢と希望の持てる甲州市政の推進」とし、市民の



地域の特徴を生かしたウォーキングイベントが人気

プロフィール

- ◆ 面積 264.01km²
- ◆ 人口 3万4728人
- ◆ 世帯数 1万3202世帯

〔将来都市像〕豊かな自然 歴史と文化に彩られた 果樹園交流のまち 甲州市

〔まちの特徴〕 武田家の歴史をいまに伝える古刹や名勝。ブドウ・モモに代表される果実と日本のワイン発祥の地

〔市町村合併〕平成17年11月1日、塩山市、勝沼町、大和村が合併



甲州市長 田辺 篤



〔特産品〕ブドウ、モモ、サクランボ、枯露柿、甲州ワイン

〔観光〕甲州市勝沼ぶどうの丘、旧高野家住宅(甘草屋敷)、ワイン発祥の宮光園とワイナリー、恵林寺、大善寺

〔イベント〕ふるさと武田勝頼公祭り、かつめまぶどう祭り、甲州フルーツマラソン大会、およっちょい祭り、健康ウォークIN甲州

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

最先端の研究機関とロマン あふれる文化財が融合するまち

はじめに

木津川市は、京都府の最南端に位置し、平成19年3月12日に木津町・加茂町・山城町の合併により京都府で15番目の市として誕生し、本年に市制5周年を迎えました。この間、人口が増え続け、5年間



浄瑠璃寺九体阿弥陀如来坐像 (国宝)

で約5000人が増加、現在は7万1901人となりました。本市は、近畿のほぼ中央に位置し、京都・大阪の中心部から約30km圏内にあることから、「関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)」の建設が進められ、「財団法人国際高等研究所」や「公益財団法人地球環境産業技術研究機構」および民間研究機関が立地する、けいはんな学研都市の中核都市として発展しています。

また、お茶の栽培も古くから行われ、大都市近郊の立地条件を生かした近郊農業も盛んな緑豊かなまちでもあります。

古くは聖武天皇により平城京から遷都が行われ、恭仁京として5年にわたり日本の首都だったことから、古からの遺産やロマンあふれる文化財などの資源が豊富にあ

ります。

このように魅力あふれるまちであることから、今年度には京都大学大学院農学研究科附属農場や民間研究機関の立地が決まりました。今後も市長によるトップセールスを行い、地域活性化につなげていきたいと考えております。

子育て支援 NO.1を目指して

子どもたちが夢を持って健やかに成長できるような環境づくりの施策として、「子育て支援ナンバー1のまちづくり」をスローガンに、地域の実情に応じたきめ細やかな子育て支援を展開しております。

主な取り組みとしては、市内の商業施設で子育て親子が気軽に集える場の提供をはじめ、放課後児童クラブの小学6年生までの拡大、

民間放課後児童クラブの設置、待機児童の解消のための民間保育園の誘致および保育時間の延長などを進めています。

また、子育て世代の経済的負担の軽減とともに働くお母さんを応援していく取り組みとして、公立病院と連携した病後児保育の実施や入院外医療費助成を小学校卒業まで拡大しているところです。

子や孫の未来のために

本市では、平成20年6月に策定した「木津川市行財政改革大綱並びに推進計画」に基づき、各種サービスや料金の見直し、民間委託の推進および職員給与の見直しなど、常に時代に適合した市民サービスを提供することを重要視しながら、全庁的な行財政改革に取り組みでまいりました。

また、平成21年度からは、新たに行財政改革推進委員会を設置し、市が実施する個別の事業についての評価を開始しました。

項目としては、合併自治体であることから国民健康保険税や上下水道料金の統一に取り組んできました。また、コミュニティバス事業を存続させることを目的として、市内バス料金を200円に統一し、今年度には、一日乗車券を導入したところ。

また、80歳以上に一律支給とする高齢者福祉手当を廃止し、その財源を活用して、高齢者世帯への火災警報器の設置事業を実施するなど、一律給付から、より必要な施策への事業転換を実施しました。今後も国の地域主権改革や合併



本年5月にまちびらきを行った木津中央地区「城山台」といづみ姫 (左)

自治体に対する地方交付税の特例措置が、平成28年度以降、段階的に減額・終了することに備えるとともに、子や孫の未来につながる持続可能な行財政システムを構築したいと考えています。

市の魅力発信による活性化

本市では、できるだけ多くの市民に「住んでよかった、住み続けたい」、できるだけ多くの企業や学校などに「進出したい」と思っていただけまちづくりを進めています。

京都府内では京都市に次ぐ数の国指定有形文化財を有するなど、ロマンあふれる文化財や豊かな自然・里山を生かして、市と木津川市観光協会が一体となって、市の魅力を全国に発信していきたいと考えています。

特に、平成22年度には隣接する奈良県で開催されました「平城遷都1300年祭」や平成23年度に京都府で開催された「国民文化祭・きょうと2011」におきまして、市内の寺院(9カ寺)の「秘仏特別開扉」、恭仁京遷都の行列を再現した「恭仁京遷都祭」および旧家や市役所などに現代アート作品を展示し、芸術

プロフィール

- ◆ 面積 85・12km²
- ◆ 人口 7万1901人
- ◆ 世帯数 2万6416世帯

〔将来都市像〕水・緑・歴史が薫る文化創造都市。ひとが輝きともに創る豊かな未来。
〔まちの特徴〕豊かな歴史・自然環境と、関西文化学術研究都市の最先端の研究機関を有するまち

〔市町村合併〕平成19年3月12日、木津町・加茂町・山城町が対等合併



木津川市長 河井規子



〔特産品〕筍、柿、大根、ナス、ゴボウ、ジャガイモ、茶
〔観光〕きつつ光科学館ふおとん、大仏鉄道跡、上人ヶ平遺跡公園、浄瑠璃寺、岩船寺、蟹満寺、史跡高麗寺跡、京都府立山城郷土資料館
〔イベント〕餅花、居籠祭、蟹供養放生会、しょうらい踊り、おかげ踊り、木津神輿太鼓祭、木津川アート

※面積は国土地理院「全国道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市民の皆さんが誇れる ふるさと八幡浜の創造を目指して

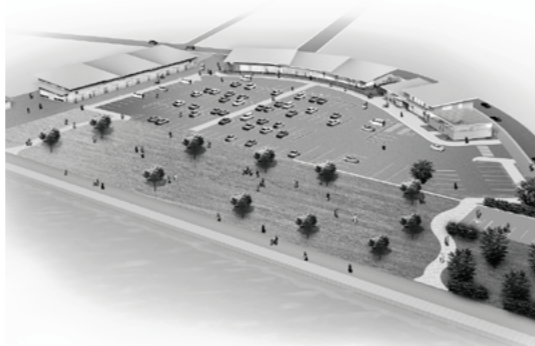
はじめに

美しく輝く海、緑に映える山々――。八幡浜市は四国の最西端、佐田岬半島の基部に位置する人口約4万人の風光明媚なまちです。

豊かな自然、温暖な気候を生かして栽培されるみかんは、日本一の評価を得ています。さらに、宇和海という好漁場を背景に、新鮮な魚介類をはじめ、蒲鉾など水産練製品の生産・流通基地としても知られています。

また、八幡浜港は、四国の西の玄関口として、九州(別府市、臼杵市)との間に、1日20往復のフェリー便が就航し、年間約40万人が往来しています。

最近では、市民のソウルフード「八幡浜ちゃんぽん」のPR作戦をはじめ、かつて「伊予の大阪」と



平成25年4月にオープンする「交流拠点施設」

から、国・県に対し、積極的な要望活動を行っているところです。また、同時に、将来、発生が確実視されている東南海・南海地震に対する防災対策も必要であり、自主防災組織の強化、防災士の養成、津波避難場所の指定、避難路の整備、海拔表示板の設置などに努めているところです。

また、地域の中核病院である市立八幡浜総合病院は、築後50年以上経過し、老朽化が進み、耐震上の問題点も指摘されており

このため、現在地において改築に取り組むこととし、新病院本体は6階建ての免震構造、別棟は2階建ての耐震構造とし、17診療科、256床を有する病院として、平

たわれていた時代の活力を取り戻そうと、行政とまちづくり団体、そして市民が手を携えながら、まちの活性化策を戦略的に展開するとともに、市民が存分に活躍できる舞台づくりのため、「道の駅」「みなとオアシス」の機能を併せ持つ「交流拠点施設」の整備を進めています。

オープンには、リニューアルする「高度衛生管理型魚市場」と同じく平成25年4月、もう間近となりました。

交流拠点施設などの整備

四国と九州を結ぶフェリー基地である八幡浜港に、約4万6500㎡(約1万5000坪)、東京ドームとほぼ同じ広さの土地が埋め立てにより完成しました。平地の少ない本市にとっては、とても貴重な

土地であり、何としても本市活性化の起爆剤にしていきたいと考えています。そのため、前述の通り、高度衛生管理型荷捌所として生まれ変わる魚市場と併せ「交流拠点施設」を整備します。

具体的には、公営施設として、ピーヤ市場(海産物直売所)、みなと交流館(観光案内所、多目的ホール、会議室)、緑地公園などを、民営施設として、アゴラマルシェ(産直・物産販売・飲食施設)を整備します。

そして、これらの施設に、商業機能をはじめ、地域情報発信機能、イベント実施機能、コミュニティ機能を持たせ、港に賑わい空間を創出するとともに、本市をアピールし、経済効果を生み出す拠点にしていきたいと考えています。

成25年1月に着工し、平成28年11月までの完成を目指すことになりました。また、屋上には緊急患者搬送のためのヘリポートを設置するほか、別棟には、放射線被ばく除染施設などを設けることになっています。

むすびに

このほか、本土から約14kmに位置する離島大島では、廃校となった小中学校校舎を活用して、ナマコ・アワビなどの養殖、加工品の開発を行うための「八幡浜市大島産業振興センター」を9月に開所したほか、ソーシャルネットワークを活用し、行政情報の提供と住民からの意見収集を図るため、FaceBook「八幡浜のみかん課」を5月に開設しました。また、このほど、現役の小中学校であり、戦後モダニズム建築として高い評価を受けている日土小学校が、その修復・保存の作業を含めて、米国のワールド・モニュメント財団より「モダニズム賞」をいただくとともに、国から重要な文化財の指定を受けたところです。

今後は、子どもたちが適正に教育を受ける機会を確保するため、保育所・幼稚園・小学校・中学校の

再編、整備を進めるほか、高齢者の移動手段を確保するため、過疎地域公共交通システムの導入などを図っていきたく考えています。このように、今まさに、八幡浜市は生まれ変わろうとしているところですが、一番大切なことは、職員の意識改革を進めることであり、何よりも力を注いでいるところ

プロフィール

- ◆ 面積 133.03km²
- ◆ 人口 3万8251人
- ◆ 世帯数 1万6987世帯

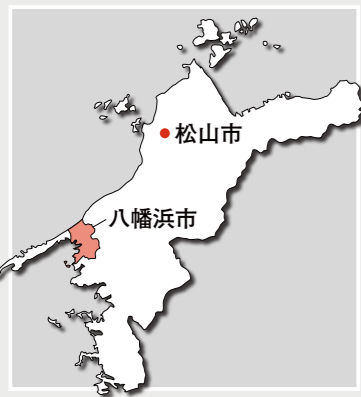
〔将来都市像〕 いま 共に育む 進取のまちづくり 風とらえ 風おこす

〔まちの特徴〕 愛媛県の最西端佐田岬半島の基部に位置し、北は瀬戸内海、西は宇和海に面し、四国の西の玄関口となっている。海と山の豊かな自然を背景に、みかんと魚を中心とする生産流通基地として栄えている

〔市町村合併〕 平成17年3月28日、旧八幡浜市と旧保内町が合併



八幡浜市長 大城一郎



〔特産品〕 みかん、富士柿、かまぼこ、じゃこ天、海産物、削りかまぼこ、唐饅頭、いよかん、清見、八幡浜ちゃんぽん

〔観光〕 おさかな牧場シーロード八幡浜、平家谷そうめん流し、自然休養林諏訪崎、梅之堂三尊仏、大島シードタキライト

〔イベント〕 真穴の座敷舞、川名津柱松神事、二宮忠八翁飛行記念大会、八幡浜みなと花火大会、保内ふれあい市、やわたはま八日市、やわたはま旬彩市、テヤテヤよろずマーケット

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



八幡浜ちゃんぽんPRキャラクター「はまぽん」

安全安心なまちづくりの推進

本市は、四国で唯一の原子力発電所である「伊方原子力発電所」から市内全域が20km圏に位置する場所にあり、万が一の場合に備えての対策も講じなければなりません。このため、原発隣接市として、県および四国電力と「伊方原子力発電所周辺の安全確保等に関する覚書」を締結し、安全確保を図るとともに、原子力発電所の事故の際に、広範なエリアで緊急、一斉に避難するためには、緊急避難道路として、地域高規格道路「大洲・八幡浜自動車道」の早期整備が必要であること